


<p>福島大学附属図書館報</p> <p>書 燈</p>		<p>No.28</p> <p>2002. 4. 1 発行</p> <p>〒960-1293 福島市金谷川1番地 TEL (024) 548-8083 http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/</p> <p>福島大学附属図書館</p>
------------------------------	--	--

映像情報社会と読書

館長 勝倉 壽

若者たちの活字ばなれ、書物ばなれが言われて久しい。その一方で、情報機器の急速な発達と普及によって、若者たちの周辺には雑多な情報が溢れている。インターネット、メール、チャット、携帯電話、そのどれも活用手段として言葉（文字）による表現が基本になっているのだが、現実には文字情報から映像情報へと加速度的に移行しつつあるようだ。

ある中学教諭によれば、「ムカツク」「キレル」生徒に著しい特徴として、感情表現語彙の極端な少なさがあるという。語彙量の乏しさから「ムカツク」一語に感情表現の微妙なニュアンスを包み込み、互いにその具体的事実には触れない。また、自分の思いを他者に伝える語彙量の乏しい生徒は人間関係に行き詰まり、「キレル」のだという。問題は、本人自身が「キレた」原因や理由、事情を説明する語彙量も表現方法も、その意志さえ持たないことである。

しかし、これは特定の世代の、感情の制御能力の乏しい短絡的な、直情的なごく一部の若者に見られる特異現象であろうか。若者が読むマンガも映像表現を主とする劇画が主流になり、ほとんど活字は見られない。若者に人気のあるテレビ番組は流行語の不規則な放射であり、ゲームソフトの膨大なストーリーに含まれる語彙は極めて少ない。いわば、若者たちを取り巻く環境そのものが、とめどなく文字情報から映像情報へと移行し続けているのである。生々しい説明的な映像、画一的な思考の方向づけに対して、ただ受動的にそれを受け入れ、思考や語彙の獲得が衰退する。「ムカツク」「キレル」はその予想されるべき結果ではなかったか。

このような現実には危機感を抱いた教育現場では近年読書の大切さが認識され、読書時間がカリキュラムに取り入れられるようになった。先日の中教審の答申でも幼少年期に「家庭での本の読み聞かせ」、

高校で「各校の必読書三十冊指定」、大学で「古典リストの提出、読破」などの項目を挙げて、遅ればせながら成長期における読書の重要性を説いてはいる。しかし、そこに映像情報社会における読書の意義についての明確な認識は乏しい。



映像と文字表現とは根本的に区別される。急速度で映像の時代に入りながら、いまだに文学が文字表現を事とするのは、映像では表現できない世界があまりに多く、独自の機能が存在するからである。

言葉は伝達を本来の機能としており、概念を記号化したものである。したがって、表現や描写を重んじる文学においても、表現力にすぐれた機能を発揮することは難しい。それゆえ、作者は文字から映像を組み立てる精神的な営為を読者に要求する。文学では言葉の論理を辿りながら、読者は自らの経験を基にして独自の映像を組み立てる。読者は作品の文字から想像による映像化という創造的な営みを行っているのである。

書物は作者が伝達内容を文字表現を通して、読者の脳裏に刻印しようとする営みである。この場合、読者はその伝達内容を読解し、分析し、評価する。その過程で共感・共鳴、あるいは違和感、反発・批判・拒否など、さまざまな反応を示すことになる。

いわば、読書とは書物を通しての作者と読者の一対一の対決である。良書と呼ばれる書物であれば、作者はその意志の伝達のために精神的営みのすべてを書物に傾注する。読者もまた自身の思索や体験や知識を力として、作者に対峙する。その不断のトレーニングが、映像情報社会では特に必要であろう。

ニューヨーク州立大学に滞在して

横山 雅夫

私は、文部科学省在外研究員として2000年8月から10ヶ月間、アメリカ合衆国ニューヨーク州のビンガムトンというところに滞在しました。ここにはニューヨーク州立大学ビンガムトン校(State University of New York at Binghamton)があり、私は「客員研究員」として研究を行いました。ニューヨーク州立大学はニューヨーク州に分散して置かれたいくつかの大学から成っていて、全部合わせると相当大規模な大学となります。ビンガムトン校はその一つですが、地元ではBinghamton Universityという別名でも呼ばれています。ニューヨーク州立大学ビンガムトン校は、五つの学部、すなわちHarpur College of Arts and Sciences、School of Education and Human Development、School of Management、Decker School of NursingおよびThomas J. Watson School of Engineering and Applied Scienceから成り、大学院の修士課程・博士課程は各学部に含まれています。学部名や後述の図書館名に学内および学外の貢献者の名前が頻繁に使われているのが印象的です。

私の所属していたのはThomas J. Watson School of Engineering and Applied ScienceのDepartment of Systems Science and Industrial Engineeringという学科です。この学科には、現在私の研究していることがら、すなわち、生産計画、スケジューリング、在庫管理、ヒューリスティック・アルゴリズム等と同じ課題について研究している研究者が何人かいて、そのうち2人の方と共同研究を行いました。研究成果は2つの論文として学術雑誌に投稿しました。

研究とは別に、大学の各種の授業を聴講させてもらいました。これにより授業の形態や学生の様子などを見ることができました。主に大学院の学生を見ていたせいかもしれませんが、学生は勤勉でやる気十分で、私はこの大学の先生たちのことがとてもうらやましく思いました。少しだけですが授業も担当させていただきました。資料を作成するなどの準備は大変でしたが、よい経験になりました。

さて、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校には、中央附属図書館にあたるGlenn G. Bartle Libraryという名の図書館とScience Libraryと呼ばれる図書館があります。前者は芸術、人文科学、社会科学、数

学、計算機科学等の分野の図書・雑誌、後者は理学分野の図書・雑誌を置いています。蔵書数は資料によると、図書1,668,720冊、学術雑誌7,194種類、マイクロフィルム1,698,029点等となっています。



私はGlenn G. Bartle Libraryだけを利用しました。写真は、雨の日に撮ったのであまりうまくは写っていないかもしれませんが、この図書館の一部です。5階建ての建物で、地下には事務室や売店があります。売店は新学期になると教科書や文房具その他を買う学生で満員でした。

図書館で私が最もよく利用したのは、学術雑誌の閲覧とコピーでした。製本していない新着雑誌の置いてある部屋は、だれでも自由に入って閲覧・コピーができるようになっています。製本済みの雑誌の置いてある部屋も通常の開架式で、また照明がずっとついていて、誰かが照明を切って真っ暗になったらどうしようとか移動式書棚に挟まれはしないだろうかといった不安がなく、落ち着いて本が探せます。複写機を利用する場合、学生はプリペイド・カードを用いてコピーするようになっています。自動販売機にお金を入れてカードを買い、コピーの際にこれを使用しますが、使い捨てではなく、同じ自動販売機で追加書き込みして再利用することもできます。コピー代はとても安いものだったので、コピー1枚あたりいくらしたか忘れてしまいました。

アメリカでの10ヶ月、不安なことや辛いことも色々あったはずなのに、今ではいい思い出ばかりが心に残っています。

(行政社会学部教授)

思い出の一冊

中畑 淳

「ピアノの詩人」と称されるポーランド出身の作曲家の伝記としては、19世紀以来すでに多くの研究者により出版されていたが、この著作はショパンを作曲家、あるいはピアニストとしてとらえながらも、彼の教育者としての側面により注目した内容となっていることで、ショパンの作品を演奏したり理解する際の、貴重な手がかりとなるものである。作曲家・ピアニストとしての華やかな活動の一方で、ピアノのレッスンすなわち教育活動にも力を入れていたショパンであるが、弟子の中から有力な後継者となるような人がなかったことから、ショパンの音楽観や演奏哲学といったものは、残された楽譜や同時代人による伝聞によって想像したり、ショパン演奏解釈のいわゆる「伝統」なるものから類推する部分があったといえるだろう。

世界的に著名なショパン研究者であるエーゲルディングンゲル氏のこの著作には、随所に当時弟子だった人達の感想や証言が系統的にまとめられ、間接的ではあるけれどもショパンの芸術観により具体的に接

することが可能となり、伝記資料としては当時大学生だった私にとって大変新鮮に感じられたものである。例えば伝聞や噂話のような体裁からは、150年あまりの時間的距離を越えて、彼がまだ面識がないだけの同時代人であるような、彼のレッスンをその場で聴講して音楽談義を傍聴しているような錯覚さえ覚えるのである。また、付録として収録されている生前に準備を進めていたという『ピアノ教則本』の草稿も、ショパンの作品のみならずピアノを演奏しようとする者にとって大変興味深い内容となっている。音楽や楽器に対する自身による直接的な意見が反映されており、これによりショパンの演奏技法や発想、あるいは演奏哲学といったものの端緒を別の角度からも窺い知ることが可能になったといえるだろう。

この本に出会ったことがきっかけとなり、私自身はその後の研究活動に大きな刺激を受けることとなった。この『弟子から見たショパン』が私にとってのまさに思い出の一冊である。

(教育学部助教授)

弟子から見たショパン

そのピアノ/教習法と演奏美学



思い出の一冊

思い出の一冊

図書館で勉強することについて

カウンター
の内側から

経済学研究科
山本 征宏

図書館とは、私にとってなくてはならないものである。思えば小さい頃からよく学校の図書室や、図書館に通ったものだ。しかし、大学に入学するまで私は図書館で勉強したという記憶はほとんどない。テレビで友人や恋人同士が図書館で勉強するというシーンを見るたび、「私もああいうところで勉強すればきっとはかどるんだろうなあ」と思っていた。私が通った学校では、図書室はどちらかというと遊びに行くような所で、決して勉強なんてできそうなどころではなかったし、町の図書館は、小学生が利用するような机と椅子が隅のほうに申し訳程度に並んでいるだけであった。

その後福島大学に入学し、附属図書館を訪れたとき、「ココなら勉強できそうだし」と思った。そこには1階だけでなく、2階にも、いかにもといった感じの机と椅子が並んでおり、まさしくテレビでみたような雰囲気だ。そこで早速私はこの図書館で勉強を試みた。そして最初のうちははかどっているように見えた。しかし、そのうち図書館で勉強することが段々イヤになってきた。私にとってその原因は“音”

にある。図書館とはやはり静かであるのは当たり前のことなのだが、そのような場所であるがゆえに、逆に人の話し声やため息など、普段気にならないことが余計気になってしまう。特に面白くない内容の勉強をしている時がそうである。

携帯電話が普及し始めたころから、さらに図書館は騒々しくなっていた。そしていつからか図書館には調べ物をしに行くことが目的となり、勉強をすることはなくなった。今は研究室や自分の部屋で勉強をしている。結局はどこで勉強をしたとしても、自分の興味のある題材だと自然と集中できるようだ。しかし、大学生ともなると自分の興味のあるものだけを、とは言っていない。そこでやはり難しい内容の勉強をしていても集中できるよう、会話や携帯電話の着信音には注意してもらいたい。そうすれば今よりももっと図書館で勉強しようとする人が増え、留年者も減る(?)こととなるだろう。



図書館新システムの紹介

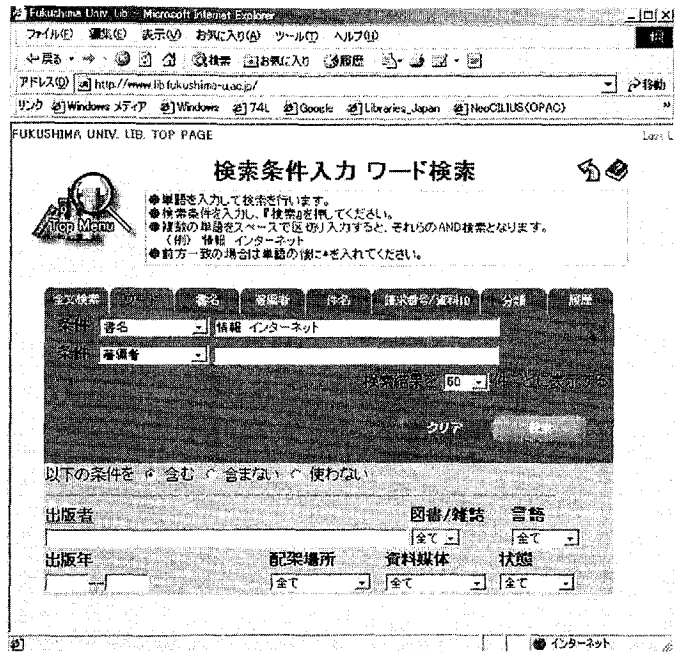
学術情報係

平成14年1月に図書館電算機が更新され、図書館サービスは新しいシステムで運用されています。

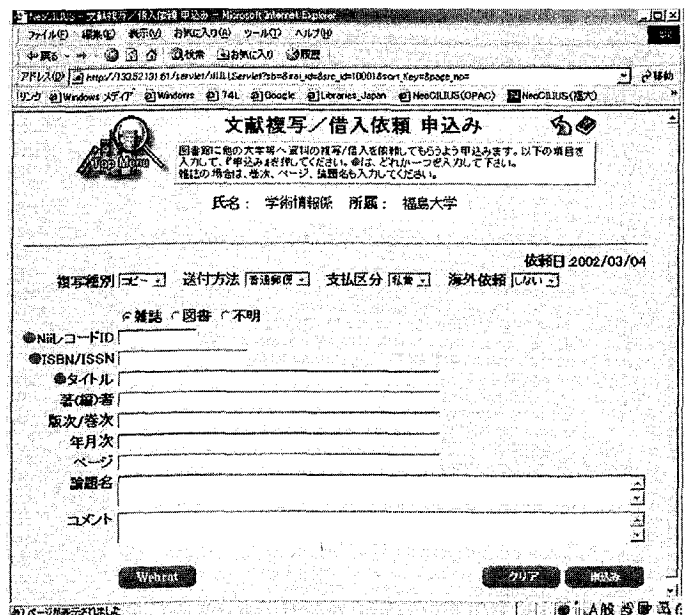
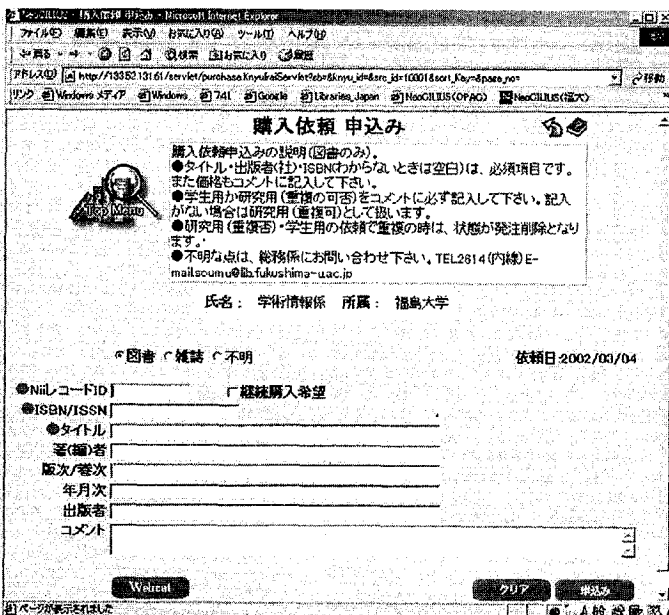
新システムはSun Microsystems社Ultraシリーズのサーバ2台と業務用・利用者用端末Windows2000で構成されています。また、図書館パッケージソフトは、伊藤忠テクノサイエンス株式会社のNeoCILIOUS(ネオシリウス)というもので、特徴は、①国立情報学研究所新CAT/ILLに対応していること②ハングル文字・中国簡体字等の多言語処理が可能であることがあげられます。図書館の扱う言語は日本語および欧米諸言語が中心ですが、これからの図書館を考えると世界の多様な言語の処理を可能とするシステムは必須の条件となります。また、利用者の皆さんに直接かかわるものとして従来から提供してきましたネットワーク経由でのOPAC(蔵書検索)があります。旧システムに比べ機能が強化されるとともにスピードもアップしています。

主な機能強化点は以下のとおりです。

1. 全文検索機能……タイトル、著者、出版社等の書誌事項に含まれている語句であればどこにあってでも検索可能。
2. ワード検索……一つの入力欄に複数の検索語をスペースで区切り入力すれば自動的にAND検索になります。
3. 分類検索……分類番号がわからなくても探したい分野を言葉で指定することができます。
4. 検索履歴……ログイン中の検索履歴が保存されていますから、前に行った検索結果同士のANDやOR検索ができます。



また、担当係への資料購入依頼、文献複写依頼も従来どおりネットワーク経由で可能です。利用にあたっては注意事項がいくつかありますので各画面の説明およびマニュアルをご覧ください。



新しく購入したCD-ROM、DVD

学術情報係

新しく入りましたCD-ROMとDVDを紹介します。
CD-ROMはすべてネットワーク対応版ですので、
学内のWindowsパソコンから利用できます。

DVDについては開架閲覧室1FのCD-ROMコーナーにあるパソコンで利用可能です。

CD-ROM

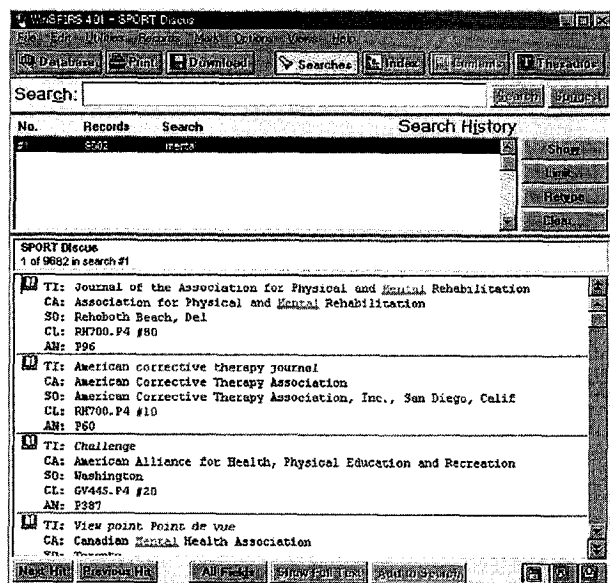
1. NEES 日経財務データCD-ROM【ネットワーク対応】

日本企業の財務データCD-ROMです。収録範囲は以下のようになっています。

単独決算と連結決算の2枚からなり、上場企業、店頭公開企業に加え上場廃止企業のデータも収録されています。収録期間は最長1964年からのデータを蓄積しているため、時系列分析にも役に立ちます。

2. Sport Discus【ネットワーク対応】

カナダのスポーツ情報資料センターが作成するデータベースです。スポーツ、健康、余暇に関する文献約50万件が収録されています。収録年代は、1830年から最近までで、毎月更新されます。



3. CD-学会年報・研究報告論文総覧【ネットワーク対応】

1945年～1995年に刊行された年次研究報告類3,000誌に掲載された学術論文の目次情報が収録されています。すでにご利用いただいています「雑誌記事索引CD-ROM」には収録されていない情報が検索できます。

4. CD-論文集内容細目総覧【ネットワーク対応】

記念論文集、特定テーマの論文集、シンポジウム、公開講座など各種論文集8,500冊について、書誌事項と内容細目が検索できます。収録範囲は1945年から1998年までの刊行分です。

5. CD-キーワードで引く参考図書【ネットワーク対応】

書籍「年刊参考図書解説目録」の累積版CD-ROMです。1990年から2000年に国内で商業出版物として刊行された辞典、事典、書誌、索引、年鑑、年表、ハンドブック、地図、法令、統計など約24,000点が収録されており、特徴や内容を説明した改題がついています。

DVD

法律分野の下記3誌のDVDを購入しました。創刊号から最近までの発行号の本文が収録されています。論題、著者名等多くのキーにより検索ができ、PDFファイルにより誌面そのままのイメージで表示・印刷することが可能です。さらに、検索した論文に引用されている判例、論文、解説などとのリンク機能もあります。

1. 旬刊金融法務事情DVD

収録範囲：創刊号～1600号（2001年）

2. ジュリストDVD

収録範囲：創刊号～1200号（2001年）

3. 判例タイムズDVD

収録範囲：創刊号～1043号（2000年）

—— 利用者用パソコン増設しました ——

1F開架閲覧室……OPAC専用1台 2F研究用閲覧室……学習用2台

2F開架閲覧室……OPAC専用1台 2F研究用雑誌室……情報検索用1台

* 決められた目的以外の使用はできません。注意事項を守って利用してください。

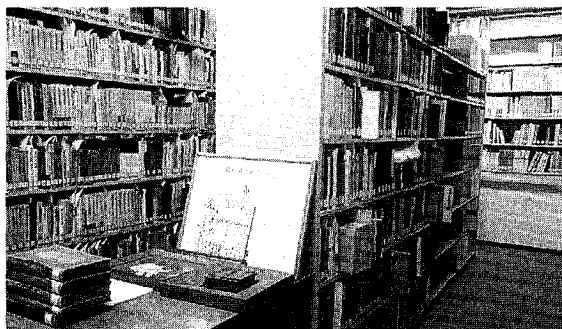
大塚久雄文庫開設について

図書館専門員 渡辺 武房

大塚久雄文庫がようやく開設の運びとなり、“何でもあがるが何にもない”本館として、大きな目玉ができたといへんよろこんでおります。「福島大学にはもったいないよ」という声も聞かれましたが、樋口徹・渡辺義夫両館長（当時）などのご努力によって、門下生を通して縁が深く、東京からそう遠くもない福島大学に収まることになったわけです。

大塚久雄先生（1907.5-96.7）は、個性的な近代市民社会成立史観（大塚史学）を確立し、平成4（1992）年に文化勲章を受章した経済史学の泰斗で、主な著作に『近代欧洲経済史序説』『近代化の人的基礎』『共同体の基礎理論』などがあります。

文庫は本館2階の一室にあり、そこには大塚先生が愛用された机と椅子が置かれ、肖像が飾られ、その周囲の書架には先生旧蔵の下記の図書・資料が収められています。先生ご自身の著作物はもちろんのこと、よく読みこまれてボロボロになったヴェーバー、マルクス、アンウィンの諸書があります。資料のなかには手書きの原稿、克明に書き取られた若き日の研究ノートなどがあり、先生の思索・研究のあとが見られます。



少年時代（京都師範附小第二教室5・6学年、大正7・8年）の日記からは、当時の京都のようす、学校のありさまが分かるばかりではなく、満身創痍（左足上腿部から切断手術、三度の胸部手術）のなかで、あれほどの仕事を残された先生の、その「気迫」と「根性」のルーツが、この「第二教室」時代にあったのではないかということに気づかされます。ご来訪の時にはこれらをぜひご覧いただきたいと思います（常時、一般公開中）。

大塚久雄文庫収蔵冊・点数

〈一般資料〉

和図書4,919冊 洋図書1,139冊 和雑誌183種 洋雑誌29種 抜刷1,567冊 大塚久雄著作（抜刷）115冊 名簿54冊 諸資料224点

〈個人資料〉

原稿15点 講演速記録22点 校正刷（ゲラ）17点 ノー

ト75冊 書簡・ハガキ21ファイル その他99点

平成9（1997）年の4月に受贈して以来、5年余をかけて宮田至君とともに整理作業に当たりましたが、ここに冊子目録（A4判、426p）・文庫案内パンフも完成し、それらは各県の県立図書館、大学図書館などの主要な図書館に配布いたしました。また、それを本館のホームページにも掲載いたしましたのでご活用いただきたいと思ひます。

大塚久雄文庫開設を祝して一連の文庫開設記念行事を催しました。1月25日には、関口尚志先生（フェリス学院大学教授、東大名誉教授）を講師に招き、開設記念講演会を本学において開催しました。講演は「大塚久雄の人と学問及び今後の社会科学にとっての大塚の重要性について」話されたもので、寒空にもかかわらず集まった参加者（150名）は、熱心に聴講しておりました。

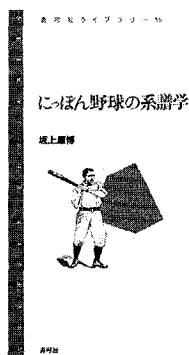


また、開設日に向けて隣室も使った特別展示を行いました。そこには大塚先生の主要な著作、よく読み込まれた洋書・聖書、日記、ノート、アルバムなどを展示しました。何本も引かれた傍線を見て、その徹底した勉強ぶりに驚嘆の声があがっておりました。

文庫はこれで終わったのではなく、今後も育てていかななくてはなりません。大塚久雄シンポジウムの開催、研究論集の発刊などを夢見ています。当面、すでに届けられている大塚久雄関係の図書・論文の整理、破損した書物の電子媒体への変換、音声テープのCD化などに取り組みます。

地元紙を中心にマスコミもていねいに報道してくれ、私もテレビに生出演するという初体験をいたしました。図書・資料のなかに長く身を置きますと親しみも増すものです。折をみて目録を携えて所沢に墓参りたいと考えています。また、開設を見ずに交通事故で亡くなられた渡辺元館長の所にも報告に出掛けようと思ひています。

学内教官著作寄贈図書を紹介



『につぼん野球の系譜学』

青弓社 2001.7

坂上 康博著

(行政社会学部教授)

この本にはいろんな思いが
つまっている。まず第1に、
野球小僧たちの名誉回復！

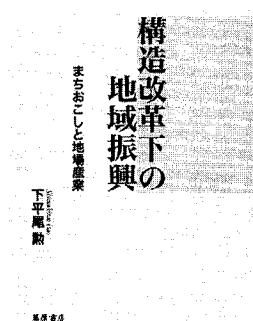
アメリカから輸入された
ベースボールに武士道や武
道精神を染み込ませ「日本

野球道」に変質させた犯人、それが一高野球部や学生
野球の父＝飛田穂洲たちだといわれてきた。しかし、

それはちがう。こうした評価はあまりに一面的で公平
さに欠く。このことが言いたかった。

第2に、ちょっとオーバーな言い方になるが、私た
ち日本人を縛っている価値観を見つめ直し、21世紀の
進行方向を展望すること。もちろん「野球を通して」
ということなのだが、それは他でもないぼく自身の価
値観を見つめ直すことであり、そのためにこの本では、
ぼくの小学校時代の教科書やマンガ、そして福島大学
の学生のみなさんの意見も紹介させていただいた。い
っしょに考えてもらえれば嬉しい。

(請求記号783.7/Sa39n)



『構造改革下の地域振興』

藤原書店 2001.10

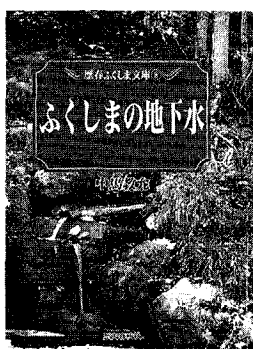
下平尾 勲著(経済学部教授)

地域経済は三つの大きな
変化に直面している。第1
は財政赤字を背景として経
済効率という尺度で行財政
改革、広域合併、地方分権
などが推進されていること。
第2に資本、技術の国際的

な移動と市場開放政策が加わり、地域経済は国際化の
渦に巻き込まれていること。第3に不況下の規制緩和

と構造改革は構造的失業者の発生と地域経済の解体を
推進していること。これらの急激な社会経済的な変化
にしっかりと対応しながら、地域は、自立化と再生産
をいかに図るか、地方自治の精神の涵養、制度の確立、
地域を担う人材をどのように育成するかが課題になっ
ている。このような問題意識をもって地域の現状に即
して、①激変する環境、②産業おこし運動、③中小企
業基本法改正、④高速交通体系の整備、⑤産学連携の
諸問題等を論じた。地域に存在する優れた条件を評価
し、弱点や欠点を克服するために何をすべきかという
地域の原点に立って振興策を提起した。

(請求記号601.1/Sh51k)



『ふくしまの地下水』

歴史春秋社 2001.9

中馬 教允著

(行政社会学部教授)

おいしい水、安全な水を
求める人が増加している。
おいしい水とはどのような
ものか、安全性を示すとも
いわれる基準値はどのよう
に理解したらよいのか、お

いしい地下水はどのような生い立ちをもっているの
か、この書はこんな話題からはじまっている。

良質、かつ豊富であった福島県の地下水は、いま、
発ガン性などを有する化学物質によって汚染され、資
源としての価値が急減してきている。地下水ばかりで
はない、大地そのものが汚染されているのである。土
地や水の汚染は、土地の売買や産業活動などに制約を
加えている。本書の核心ともいえる部分では、汚染の
実態を具体的なデータに基づいて紹介するとともに、
汚染を除去して住みよい県土にしていくことを、制度
面にも踏み込みながら提案している。いま生あるもの
が、新しく生まれ出るものが健やかにくらせる環境を
創りだしていくために。

(請求記号090/R25r/8)

その他の学内教官著作寄贈図書リスト

書名	出版社	出版年	著者	請求記号	所在
磐梯火山と湖の生い立ち	文化書房博文社	1988.12	磐梯盆地団体研究グループ編著	094.5/I54b	学内刊行物コーナー
生きるということ	PHP出版	2001.12	飯田史彦	159/I26e	学内刊行物コーナー
人生の価値	PHP出版	2001.8	飯田史彦	159/I26j	学内刊行物コーナー

図書館では学内関係者の著作物を収集しております。

出版されました際には、ぜひ図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

図書館の達人シリーズVOD視聴を試験的に運用開始

—図書館利用のレベルアップを図るためのレファレンスツール—

情報サービス係

VODとはVideo On Demand (ビデオ・オン・デマンド)の略語です。サーバにビデオの映像を保存しておき、ネットワークを通じて学内のパソコンを使っていつでもどこでも視聴できるようにしたシステムです。

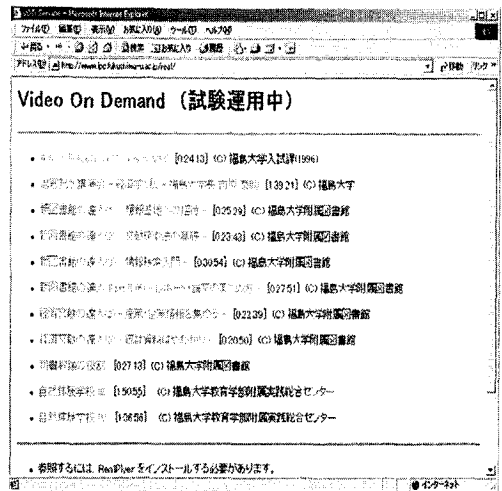
今回図書館では学生諸君に図書館を上手に活用してもらうために7本のビデオを試験的にサーバに保存しました。タイトルは以下のとおりです。これらは毎年開催されている「文献検索法講座」で使用するビデオを中心に選んだものです。「図書館はどういう機能を持っているのか」「学習やレポートの際に必要な文献を見つけるためにはどうするのか」「レポートを作成する手順は」などわかりやすく解説してあります。

- ① 新図書館の達人 (1)
—情報基地への招待— (約26分)
- ② 新図書館の達人 (2)
—文献検索法の基礎— (約24分)
- ③ 新図書館の達人 (3)
—情報検索入門— (約31分)
- ④ 図書館の達人Part II (6)
—レポート・論文のまとめ方— (約28分)
- ⑤ 経済文献の達人 (2)
—産業・企業情報を集める— (約23分)
- ⑥ 経済文献の達人 (3)
—統計情報はわかり— (約21分)
- ⑦ 司書教諭の役割 (約28分)

VODは学内のパソコンから自由に視聴できますが、RealPlyerがインストールされていることが必要です。また、図書館や情報処理センターなど多くの学生が利用している場所での視聴の際は音声は他の学生の迷惑にならないよう注意してください。図書館内のパソコンを使用する場合はヘッドホンを出していますので、ご利用ください。

【VODを視聴する方法】

図書館内のパソコンから視聴する場合は、図書館のホームページから情報処理センターのホームページを開きます。「学内向け情報」の中に「Video On Demand」がありますので、クリックしてVODのメニュー画面を開きます。視たいタイトルを選んで視聴します。



(情報処理センターVODメニュー画面)



(RealPlyer画面)

図書館の達人シリーズはこの他にも所蔵しておりますので、カウンターにお問い合わせください。

目次

- ・映像情報社会と読書……………勝倉 壽一(1)
- ・ニューヨーク州立大学に滞在して……………横山 雅夫(2)
- ・思い出の一冊……………中畑 淳(3)
- ・図書館で勉強することについて
—カウンターの内側から—……………山本 征宏(3)
- ・図書館新システムの紹介……………学術情報係(4)
- ・新しく購入したCD-ROM、DVD……………学術情報係(5)
- ・大塚久雄文庫開設について……………渡辺 武房(6)
- ・学内教官著作寄贈図書を紹介
「にっぽん野球の系譜学」……………坂上 康博(7)
- 「構造改革下の地域振興」……………下平尾 勲(7)
- 「ふくしまの地下水」……………中馬 教允(7)
- ・その他の学内教官著作寄贈図書リスト……………(7)
- ・図書館の達人シリーズVOD視聴を試験的に運用開始
—図書館利用のレベルアップを図るためのレファレンスツール—
……………情報サービス係(8)